

局地循環の解明について

- (2) 江上 公会員 (尾鷲測候所)
連続降雨形曲線及び降雨災害の研究
- (3) 半田 孝会員 (大阪府立花園高等学校)
気象教育に適した観測法の開発とその応用
- (4) 瀧島幸市会員 (東京都江戸川区立松江第二中学校)

身近な気象教材の開発とその活用—微気象観測や衛星画像の利用—

3. 昭和61年度山本賞贈呈式

山本賞補候補者推薦委員会委員長から選定理由の説明があつて、理事長から次の会員に賞状及びメダル並びに賞金が贈呈された。

笹野泰弘会員 (国立公害研究所)

ミー散乱ライダーによる大気混合層及び遷移層の構造の観測

4. 昭和61年度山本賞受賞記念講演

受賞者笹野泰弘会員による受賞記念講演があつた。

日本気象学会国際学術交流基金への募金のお願いと寄付者御芳名 (第7報)

日本気象学会は、かねてから各国の気象関係組織および研究者との学術交流を図るため、国際学術交流基金をもうけて、学会もしくは会員の学術交流の援助を目的とした活動を致しております。実施にあたっては、外国で開催される国際学術研究集会への会員の出席の補助、国際学術交流に貢献する事業の援助などです。昨年は、少額ですが IAMAP への若手研究者の出席の援助を実施し、また、中国気象学会との交流などを致しました。

本来この基金は、少なくとも一千万円程度の元金があつて、その利息で活動費をまかなうことを目標としていますが、現在のところ、その過渡期として、学会自身の年間予算から毎年約百万円を積み立て、並行した、わず

かの一般事業費と篤志による個人寄付金で活動を行っております。

基金の基礎を固めるためには、是非、会員の皆様からの御寄付をお願いします。理事会としては、さらには大口の団体寄付を仰ぐべく努力致す所存です。国際学術交流基金の趣旨を御理解いただき、12月号挿入の振替用紙を御利用の上、一口千円として、なるべく多くの御寄付をお願いします。

なお、募金期限は昭和62年12月末日と致しますが、早い時期にお振り込みいただきますようお願いいたします。

昭和62年1月

日本気象学会

昭和61年12月31日現在、下記の会員からご寄付がありましたので、お礼を兼ねて報告申し上げます。

なお、引き続き会員各位のご協力の程お願い申し上げます。

記

柴崎和夫、小元敬男、武田喬男、樋口敬二、小野 晃、岩坂泰信、田中 浩、中沢哲夫、岩嶋樹也、能登正之

(2回目)、中田豊治、富田正夫、木田秀次、正木 明、高橋忠司、廣田 勇、朝倉 正、水間満郎、桜井兼市、仲里 正、伊藤昭三、戸松喜一、藤部文昭、笹野泰弘、小松 巖、荒生公雄、島川甲子三 (入金順、敬称略)

以上27名 合計口数 146口 146,000円

累計94名 総口数 537口 537,000円

61.12.31 現在 国際学術交流基金額 4,400,000円